



執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

「発行協力金」会員を募集

東京25ジャーナルでは、媒体運営の理念と趣旨に賛同いただいた地域の企業・団体・個人事業主・個人の皆様に、「発行協力金」という形でご支援をお願いしています。「発行協力金」会員の皆様に、一定期間のご支援を継続していただくことにより、媒体の安定した運営、より公益性の高い記事を扱うことを目的としています。ご支援をいただいた場合、紙面に協賛広告を掲載させていただきます。問い合わせは090-8460-9688 岡村まで。

『みんなであつころう 日の出町』継承

前町長の死去に伴う4月の日の出町長選で初当選した田村みさ子町長に取り組みと課題を聞いた。就任4カ月、目の前にあるコロナ対策を含め目が回る忙しさの中、西多摩初の女性町長への期待が高まる。(聞き手・東京25ジャーナル 岡村信良)

「信頼で選んで下さった皆さんに4年間の日の出町政に注目していただきたきたい」

「日の出町政史の歴史を変えた勝利だった。西多摩初の女性町長の誕生は30年余り町政を見てきて感慨深いものがあった。就任4カ月、女性ならではの目線を生かした町政をどう進めるのか、改めて決意を聞かせてほしい。」

田村「選挙投票日の夜に町長就任となり、過去を振り返る暇なく仕事に没頭しています。議員から町長となり、町政をチェックする側から町政運営を担う立場となりましたが、どちらも町民のために働くことでは一緒です。町民の暮らしが多様化している中でニーズも様々です。コロナ禍で例年の行事が次々と中止になり、まだ収束の見えない中ですが、暮らしを守る政

施策決定 プロセスの透明性重要

早かった。田村「医師会や高齢者施設等のご協力があり、イオンモールのご厚意で接種会場も確保できました。各自治会役員さんには予約のご協力をお願いしまし

す。64歳以下の接種は6月29日から始めています。計画では8月中旬には12歳以上の希望者への接種を終える予定です。ただワクチン供給の見通しが急に変わることがあるの

田村みさ子日の出町長に聞く



就任以来、目の回る忙しが続く田村町長(日の出庁舎町長室で)

きる野市のご協力をいただきました。高齢者施設従事者については他所の住民であっても実施しています。自治体間で協力体制をとりながら、東京都全体、国全体で接種が進めばいいと思います。選挙では橋本町政の継承を掲げた。橋本町政、その前の青木町政の評価と受け継ぐべきものはなにか。田村「青木町政は下水道や工業団地、イオン周辺開発等のハード事業、橋本町政は福祉

えていませんが、住民ニーズをくみ取りながら見直しを行っていきます」

6月議会の町長所信表明では、福祉施策と財政対策について、正面から触れ、町政に取り組む真摯な姿勢が伝わった。ただ、福祉施策については町財政を圧迫しているとの声もある。福祉単独施策検証会議の役割は。田村「福祉単独施策検証会議に先日出席して、委員の方々のご意見を直接うかがいました。この会議は諮問答申の形をとっておりません。ご意見を報告としてまとめます。そしてご意見をふまえて、町としての方向性を出していくことになりま

す。時代のニーズにあった有効な施策であるのか、他の福祉施策とのバランスをとりつつ検討していくこととなります。決定のプロセスの透明性は重要です。町の考え方を町民の皆様とその代表者である町議会議員の先生方にご理解いただけるよう、情報提供に努めていきます」

(2面に続きます)

東京25区管内の政治・行政、経済、社会、トピックス



編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

記事は毎週土曜日に配信。タブロイド判をPDFで

society&business Tokyo25 journal 25 Journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

田村みさ子日の出町長に聞く 『子育て世代包括支援センター』設置を計画

(一面から続く)

高齢者福祉と子育て支援について、田村色に変えていくのか。

田村「安心して子どもを育てられる環境づくり、相談先がある安心感、仕事との両立、教育も含めて、これは行政としてやるべきことです。次の時代を担う子どもたちを社会全体で育てていくとの考え方で事業の見直しをしていきます。子育て中は、安心感、安定感が大切、相談相手がいる、一緒に子育てをする仲間とい関係づく

「高年齢者福祉と子育て支援について、田村色に変えていくのか。」

田村「安心して子どもを育てられる環境づくり、相談先がある安心感、仕事との両立、教育も含めて、これは行政としてやるべきことです。次の時代を担う子どもたちを社会全体で育てていくとの考え方で事業の見直しをしていきます。子育て中は、安心感、安定感が大切、相談相手がいる、一緒に子育てをする仲間とい関係づく

「高年齢者福祉と子育て支援について、田村色に変えていくのか。」

田村「安心して子どもを育てられる環境づくり、相談先がある安心感、仕事との両立、教育も含めて、これは行政としてやるべきことです。次の時代を担う子どもたちを社会全体で育てていくとの考え方で事業の見直しをしていきます。子育て中は、安心感、安定感が大切、相談相手がいる、一緒に子育てをする仲間とい関係づく

JA経営と地域社会貢献

4月1日、JA西東京が合併20周年を迎えた。2001年、JA西東京組合長になった野崎啓吾氏である。40歳を目前に醤油製造から農協に転身。農家の生活向上と地域発展に尽くした。

「父は大正14年生まれ。青梅農林に学び赤紙で出征。戦後は祖父と一緒に家業を盛り立てた。しかし、大手醤油メーカーの影響で、

昭和30年代後半に廃業。41歳のとき、自ら志願して当時の霞農協の理事に就いている」

こう回想する野崎啓太郎現JA西東京組合長は、忘れられない父親の言葉がある。曰く「俺がやってきたことで一番良かったのは商売をやめたこと」だと。確かに「見切り千両」という。その決断が省吾氏の新たなビジネス人生につながったといっている。

JA西東京 野崎啓太郎氏



「後年、ある若い医師の情熱を信じ、青梅慶友病院の開業を支援した。土地の提供、資金借入れの保証人を引き受け、いまや病院は高齢者介護、療養の最前線に担っている。息子の私から見ても豪快で決断のできるトップだった」

親分肌の生き方は、5歳で父親を失い、比較的早くに社



父の背中

「時代は、高度経済成長期の真ただ中、農家も新たな努力が求められる。ここで、醸造業で培った父の経営センスが生きたと思う。1年後、組合長の就任挨拶で『協同

組合も株式会社社の発想が必要だ」と強調したと聞く。

組合長になって推し進めたひとつが農家のアパート経営。米や野菜を売るだけでなく、所有している土地を活用して不労所得を得る。そのために積極的に融資を行なう。家賃収入は貯金に回してもら

う。文字どおり共存共栄にほかな

「時代は、高度経済成長期の真ただ中、農家も新たな努力が求められる。ここで、醸造業で培った父の経営センスが生きたと思う。1年後、組合長の就任挨拶で『協同

若い世代の情報発信にデジタルを活用

田村「若い世代が住み続けることや若い家族が定住したいと思うためには、魅力のあるまちづくりが大切です。都心より安く一戸建てが手に入ることで、住宅のすぐそばに自然があつて新宿に1時間で行くことができ

「若い世代が住み続けることや若い家族が定住したいと思うためには、魅力のあるまちづくりが大切です。都心より安く一戸建てが手に入ることで、住宅のすぐそばに自然があつて新宿に1時間で行くことができ

用することは有効なことです。また十分とは言えません。文字より映像による発信の時代になっています。現状を変えていきたいです。日の出町で働く人たちがこの町に住み続けることも工夫したいです。就農支援策で農業の徹底的な見直しは急所となり大きな仕事となるが、どう進めるのか。

田村「令和2年度決算では試行的に新たな事務事業評価シートを使つて評価を行う予定です。事務事業全般を洗い出し、福祉単独施策検証会議のご意見をまとめるなどする中で、令和5年度からの集中改革プランを策定していく予定です」

「あきる野市と給食センターを共同設置していくが、広域行政や秋川流域の市町村合併についての考えは。」

田村「給食センターについてはすでに2月に基本合意書を締結し、現在、協定書締結に向けて協議を進めているところ。あきる野市をはじめ近隣自治体とは一部事務組合でごみ処理や斎場運営

をしていますが、近隣自治体とは協力してできることは一緒に取り組んでいきたいと考えています。市町村合併については考えておりません」

「町長が町議会に携わり始めたころの町は、新旧住民、ごみ処分場問題など、町を二分するいくつかの対立軸を抱えていた。田村町長の誕生はそれらを大きく見れば止揚したものだ。町長がイメージする「人にやさしく住みよい町」とは。

田村「この30年間、私も町長選挙ではその時々でより良い候補者を選んで支持してきました。保守と革新、保守分裂、処分場や合併など対立軸がはつきりした選挙でした。そういう意味で言えば、今回は3人の候補者がそろつて前町政の継承を掲げ、争点の分からない選挙でした。そんな中で、今までの対立を一度リセットしよう」と、期待で選んでくださったと思つていますが、また町民の方の意識もこれまでと大きく違つていたと感じています。私は約40年前にこの地に夫と生まれたばかりの子どもを連れて引越してきて、日の出町で子どもを育ててきました。PTAやごみ処分場問題にも仲間と取り組み、地域で生活してきたので、無所属議員を26年間続けて町政に参画しながら、社会福祉法人で福祉にも関わってきました。家族とともに地域で普通に暮らしながら仕事を続けてきた普通の人間、それも女性です。そんな私をとかくやってみると選んで下さつたと思つています。信頼で選んで下さつた皆さんにこれから4年間の日の出町政に注目していただきたいです。『人にやさしく』というのは、気持ちを大切に、思いやる、分かち合う、譲り合うこと、そういうことは政治の世界と無縁のようですが、人のためのまちづくり、政策であれば多くの方が支持してください。お互いを思いやるまちづくりをしていきたいと考えています」

「ありがとうございます」